

港湾局長の海外出張について

令和元年度の港湾局長の海外出張についてお知らせします。

1 出張者及び出張先

出張者： 港湾局長 古谷 ひろみ

出張先： シンガポール、台湾(高雄及び台北)

2 出張期間

令和2年1月12日(日曜日)から同月18日(土曜日)まで(6泊7日)

3 出張用務

シンガポール及び台湾の港湾管理者等を訪問し、管理や運営に関する情報を収集するとともに、東京港のPR活動を行う。

4 経費

850,320 円

5 同行者数

2名

6 出張先での行動

1月12日(日曜日)

移動日(羽田→シンガポール)

1月13日(月曜日)

シンガポール港訪問

(港湾管理者との意見交換、コンテナターミナル等視察)

マリーナベイ・クルーズセンター訪問

(クルーズターミナル運営者との意見交換、クルーズターミナル視察)

1月14日(火曜日)

Ocean Network Express 訪問

郵船ロジスティクス訪問

1月15日(水曜日)

移動日(シンガポール→台北)

1月16日(木曜日)

高雄港訪問

(港湾管理者及びコンテナターミナル運営会社との意見交換、コンテナターミナル等視察)

1月17日(金曜日)

ワンハイラインズ訪問

エバーグリーン訪問

1月18日(土曜日)

帰国日(台北→羽田)

7 出張の成果

(1)シンガポール

港湾管理者と港湾経営等に関する意見交換を行うとともに、港湾施設の視察を実施した。コンテナ貨物取扱量が世界2位であるシンガポール港は、2040年までにシンガポール西部のトウアス地区にコンテナターミナルを集約することを予定している。新しいターミナルでは生産性向上のため、ターミナルの完全自動化を目指しており、実証実験を行うなど自動化にあたっての課題の抽出を進めているとのことだった。自動荷役の様子やAGV(無人搬送車)の実証実験の様子を視察するとともに、ターミナルの自動化にあたっての課題や効果等について意見交換を行うことができ、大変参考となった。

また、コンテナ船運航会社であるOcean Network Expressを訪問し、東京港の概要や今後の整備計画、東京港における東京2020大会への取組等を紹介するなど東京港のPRを実施した。

さらに、マリーナベイ・クルーズセンターを訪問し、クルーズ客船の受入に関してクルーズターミナル運営者との意見交換を行うとともに、ターミナル内の視察を行った。当ターミナルでは航空会社と協力し「Cruise Fly」というサービス(フライトのチェックインや手荷物預かりサービスをクルーズターミナルで利用することができる)を提供するなど、乗客の利便性向上に向けて積極的な取組を行っており、東京国際クルーズターミナルの開業に向けて大変参考となる有意義な意見交換を行うことができた。

(2)台湾

港湾管理者及びコンテナターミナル運営会社を訪問し、意見交換を行うとともに港湾施設の視察を行った。

台湾内最大の港である高雄港はアジアのハブ港を目指しており、港湾の機能強化を図るため、荷役機器の半自動化やターミナルの整備を進めている。またクルーズ客船の誘致においても、新しいクルーズターミナルの建設を進めるなど東京港との共通点も多く、活発な意見交換を行うことができ、大変参考となった。

さらに、コンテナ船運航会社であるワンハイラインズ及びエバーグリーンを訪問し、東京港の概要や今後の整備計画、東京港における東京 2020 大会への取組等を紹介するとともに、意見交換を行い、東京港のPRを実施した。

8 お問い合わせ先

港湾局港湾経営部振興課

03-5320-5529